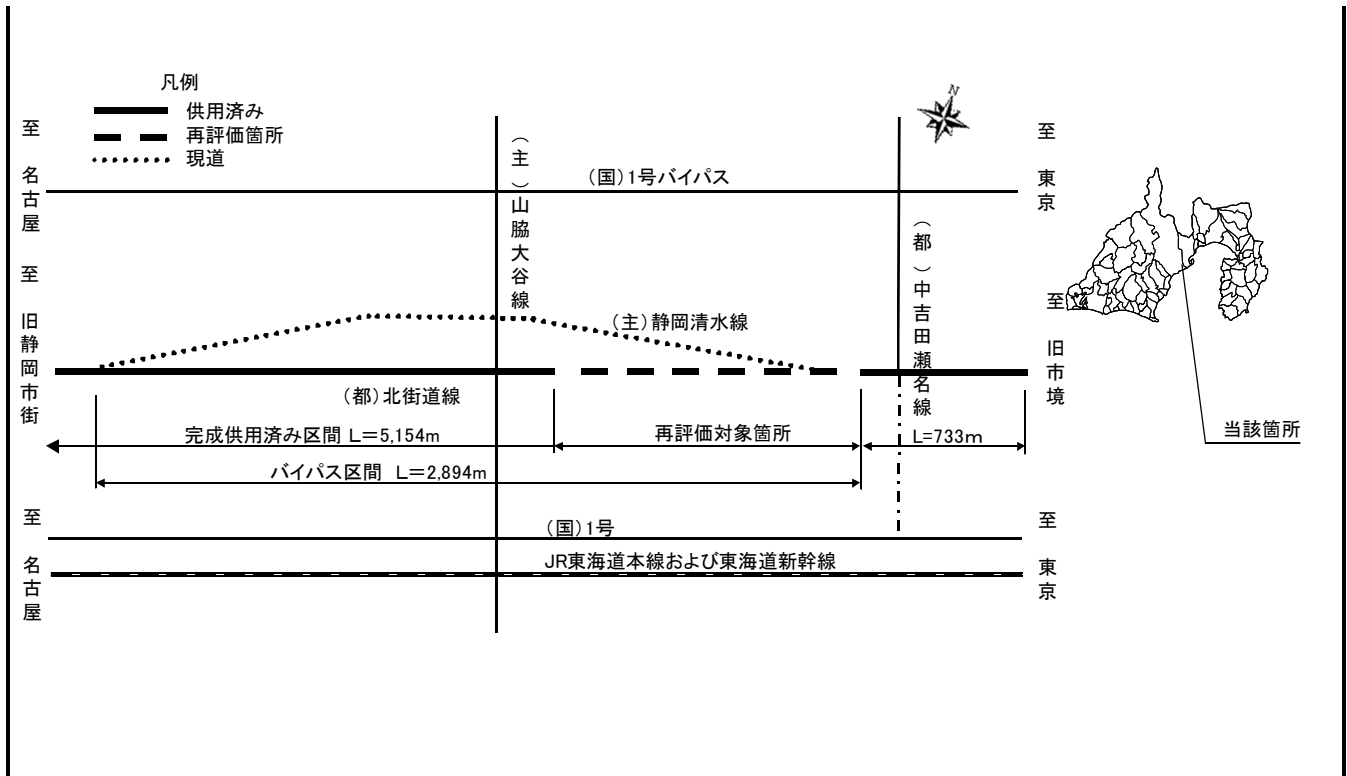


再評価結果（平成15年度事業継続箇所）

担 当 課：中部整備局都市整備課
 担当課長名：筒井 祐治

事業名 都市計画道路 <small>きたかいどう</small> 北街道線	事業区分 街路	事業主体 静岡県
起終点 自：静岡県静岡市川合 至：静岡県静岡市瀬名	延長 0.61km	
事業概要 （都）北街道線は、旧静岡市と旧清水市を結ぶ東西主要幹線である。本計画は当都市計画道路のバイパス区間のうち、最東端部にあたる延長L=609mの整備を行うものである。なお、当区間を整備することにより、バイパス区間はもとより、都市計画道路全線が完成することになる。		
H6年度事業化	S36年度都市計画決定 （H7年度変更）	H7年度用地着手
H6年度工事着手		H6年度工事着手
全体事業費 約4.8億円		
事業進捗率 99%		
供用済延長 0.30km		
計画交通量 20,210台/日		
費用便益分析結果	B/C (事業全体) 2.6 (残事業) 105.0	総費用 (残事業)/(事業全体) 1.3 / 52 億円 (事業費: 0.80/51億円) (維持管理費: 0.49/0.49億円)
総便益 (残事業)/(事業全体) 137 / 137 億円 (走行時間短縮便益: 133/133億円) (走行費用減少便益: 3.7/3.7億円) (交通事故減少便益: 0.22/0.22億円)		基準年 平成15年
感度分析の結果 交通量変動: B/C=2.9 (交通量+10%) B/C=2.4 (交通量-10%) 事業費変動: B/C=2.4 (事業費+10%) B/C=3.0 (事業費-10%)		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保(現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善) ・都市の再生(DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する) 他10項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 平成15年3月、旧静岡市と旧清水市が合併し新静岡市が誕生した。新市の誕生により旧市域間の一体性確保はこれまで以上に重要なものとなり、旧両市を結ぶ本路線の整備は必要不可欠なものとなった。 また、地元関係者等より「北街道バイパス整備促進期成同盟会」が組織されており、早期開通を強く要望されている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 旧市境への複合型ショッピングセンター施設の新規立地等のため、当地区における交通渋滞はますます深刻化している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地買収は100%、物件補償は99%の進捗率であり、残は既契約済みの家屋の移転取壊しのみとなっている。残工事については、主に舗装工事であり平成16年度秋の共用開始に向けて整備を進めている。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成12年度の埋蔵文化財試掘調査の結果、弥生時代～中世の住居跡や土器・石器等が発掘され、本調査を行うことになり、不測の日時を要したが現地調査も無事完了し、平成16年度秋の共用開始に向けて整備を進めている。		
施設の構造や工法の変更等 建造物の築造にあたり、プレキャスト製品の採用等、新技術・新工法を積極的に活用することによりコストの削減を図っている。		
対応方針		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。